

夏季学術講習会が開催されました！



7月28日(日)は福島県立医科大学会津医療センターにて夏季学術講習会が開催されました。

会津医療センターでの夏季学術講習会は本会の夏の風物詩といっても過言ではありません。それほど定着してきたように思います。

これには日夜診務に当たられ、大変お忙しい中でこの日のために会場の予約や講演の準備等をしてくださった会津医療センターの皆さんのお陰と感謝いたします。

当日は福鍼会の会員のみならず、秋田県鍼灸師会から1名、山形県鍼灸師会から7名、会津医療センターの鍼灸研修生3名、県内外の非会員3名の参加があり、用意した講義室はパンパンで熱気に包まれました。

午前中は「風邪・感染症について」と題し、福島県立医科大学会津医療センター 総合内科 教授の宗像源之先生によるご講演。

風邪は日常でもよく遭遇する症例です。ですが、あらためて「風邪とはなんぞや」と問われたとき、漠然とした知識のままいることに気付かされます。あなたは風邪の定義や細菌性 or ウィルス性の鑑別の仕方などは即時に役立つ内容でした。時折出題される「風邪にまつわるクイズ」もなぜ答えが×なのかを分かりやすく、ユーモアたっぷりにお伝えいただきました。

Q. 『かぜ』をこじらせると肺炎になる？

『かぜ』は万病のもと？

……さて、これら2問のクイズ、あなたの答えは○×どちらでしょうか？

あっという間の1時間30分。ベテラン医師 宗像先生による大変気づきの多い講演に目からうろこでした。毎年書いていますが、宗像先生の講演が聞けないことは大きな損失、本当に勿体ないことだと思います。講習会に参加できない理由は様々ですが、県外からも参加者がいるということの価値をあらためて考えてみてはいかがでしょうか。



午後は福島県立医科大学会津医療センター
漢方医学講座 准教授 鈴木雅雄先生による
「COPD・呼吸器の鍼灸治療」。

受講者が6つの班に分かれ、ワークショップ形式で進みました。ワークショップは呼吸機能検査の結果が書かれた4枚の紙があり、その中から1枚を選んで疾患を推測するという内容でした。

情報として提示されているものが「性別」「年齢」「症状」「呼吸機能検査の結果」のみだったこともあり、大変難しく、脳に汗をかきながら班のメンバーと協力して疾患を推測していきました。参加者は四苦八苦していましたが各班ごとに発表もあるため必死でした。他の班は分かりませんが小沼の班はギリギリ答えにたどり着いたような感じでした。



なお、あとで鈴木先生から伺った話ですが、『研修医が行うレベルのもの』とのことでワークショップというよりもトレーニングといった内容でした。

日常ではまずやらないトレーニングだったこともあり、とても難しかったです。答えを導こうと共闘する班のメンバーが頼もしく、実際に疾患を推測したあとの高揚感は癖になり

りそうです。これは一人ではできませんね。グループワークの醍醐味かと思います。

その後、予定を大幅に（1時間）オーバーして午後のご講演が終了しました。COPDの膨大なデータの中から分かりやすく概要を解説していただきました。また、画像を交えてどの程度の深さまで刺鍼できるのか、実際のどの経穴を使っているのか、どのような手技を鍼灸研修生に指示しているのなど、惜しげもなくご教示いただきました。

NHKの番組「総合診療医 ドクターG」に出演され、『攻める問診』で有名な山中克郎先生が今年4月に会津医療センターに着任されたのはご存知だと思いますが、うまくいけば**来年は山中先生のご講演が実現するかもしれません**。これは期待してしまいますね。どうぞお楽しみに！

【70周年記念県民公開講座についての情報】

- 12月1日（日）郡山市商工会議所会館 6階 中ホールA 13:00~16:30
- 公開講座テーマ「ストレス社会における鍼灸の役割」
- 講演1 演題：「うつ病について」 講師：樹診療所 所長 山田朋樹 先生
- 講演2 演題：「ストレス社会に対する鍼灸師の役割」 講師：明治国際医療大学 鍼灸学部 特任教授 福田文彦 先生